



西原塾の基礎英文法テキスト

～これであなたも英語が読めるようになる！～



内容

品詞:『名詞』.....	- 2 -
品詞:『動詞』.....	- 4 -
品詞:『形容詞』.....	- 5 -
品詞:『副詞』.....	- 6 -
品詞:『冠詞』.....	- 7 -
品詞:『前置詞』.....	- 8 -
五文型.....	- 9 -
品詞分解とは？	- 10 -
第一文型:『S + V』.....	- 11 -
第二文型:『S + V + C』.....	- 13 -
第三文型:『S + V + O』	- 15 -
第四文型:『S + V + O ₁ + O ₂ 』	- 16 -
第五文型:『S + V + O + C』	- 17 -
『主語』『動詞』『目的語』『補語』の訳し方	- 18 -
to 不定詞	- 21 -
現在分詞・過去分詞.....	- 27 -
接続詞・関係詞.....	- 41 -

品詞:『名詞』

品詞は英語を学ぶ上で最も重要

英語が苦手な人は英文が【単語がただ並んでいるだけ】に見えています。私は昔そう思っていました。これは間違いで、まず、全ての英単語には『品詞』という役割が与えられています。そして、英文はその品詞を元にした『五文型』というルールにそって組み立てられています。五文型によって「この品詞はここに置く」と定められているわけです。最初は『品詞』から説明していきます。覚える品詞は、『名詞』、『動詞』、『形容詞』、『副詞』、『冠詞』、『前置詞』です。

名詞 = モノの名前

名詞は『モノの名前』を表します。物の名前や人名、「～すること」といった動作そのものを指す場合もあります。まずは『固有名詞』、『可算名詞』、『不可算名詞』の3種類を覚えましょう。

種類	固有名詞	可算名詞	不可算名詞
特徴	人名や地名などの、特定のモノの名前。基本的に冠詞(「a」, 「an」, 「the」)がつかない。先頭は大文字。	数(個数)を数えられる名詞。単語の最後に「s」や「es」をつけて複数形にできる。 単数形の際は単体では使えず冠詞か所有格が必要。	数を数えられない名詞。複数形が存在せず、常に同じ形で単語の形が変わらない。
例	Ken, UNIQLO, など	apple, pen book など	water, bread など

可算・不可算名詞のルール ※ ○は速読英単語に入ってから覚えれば良い

可算名詞

- 可算名詞は「単数形」と語尾に「s」, 「es」をつけた「複数形」が存在する。
- 可算名詞を単数形で使用する時は冠詞(「a」, 「an」, 「the」)または所有格(「my」や「his」など[詳しくはP3])が必要で、単数形のみでは使えない。→「I have pen.」は不成立。
- 複数形の際は単体でも使用できる。
 - 「some」, 「any」, 「many」, 「few」などの数量を表す単語と使用する時は複数形を用いる。(「much」, 「little」は不可)

不可算名詞

- 不可算名詞は1つの形しか存在しない。
- 基本的に「単数形」として扱う。例:「Water is～」, 「Water comes～」
 - 可算名詞の単数形とは異なり、不可算名詞は単体で使用できる。「I have water.」はOK
 - 不可算名詞には冠詞「a」, 「an」は使用不可。「the」は必須ではないが使用可能。
 - 不可算名詞と数字は同時には使えない。例:「two water」, 「two rice (rice=お米)」
 - 不可算名詞は「one」, 「two」などの数字は使用できないが、「some」, 「any」, 「much」, 「little」などの数量を表す単語とは同時に使用できる。(「many」, 「few」は不可)

代名詞

代名詞とは、名詞の一種です。「Yosuke is a soccer player.」「He is my friend.」のように、前に使われた名詞を言い換えるために使います。代名詞は単語を覚えるだけでは足りません。意味はもちろん、どの単語が「何格なのか」までも覚えましょう。

	主格	所有格	目的格	所有代名詞
私	I	My	Me	Mine
あなた	You	Your	You	Yours
彼	He	His	Him	His
彼女	She	Her	Her	Hers
それ	It	Its	It	—
私たち	We	Our	Us	Ours
あなたたち	You	Your	You	Yours
彼ら 彼女ら それら	They	Their	Them	Theirs

代名詞の注意事項

- 1) 「所有格」は名詞の前に付き、後ろの名詞の「持ち主」を表す**形容詞**として働く
例: 「I have your pen.」 → 「私はあなたのペンを持っている。」
- 2) 目的格は主格の単語が「**目的語**」として**使われる**ときに使用する形 ※ 詳しくは P9
例: 「Ken is a soccer player.」 → 「I like him.」
- 3) 「所有代名詞」とは**物体とその持ち主を表す名詞**
例 1: 「mine」 = 「私の物」 例 2: 「his」 = 「彼の物」
- 4) 「It」の所有格「Its」は「**It is / It has**」の短縮系である「**It' s**」と混同しないように注意
- 5) 「beautiful she」や「good him」のように**代名詞が形容詞に修飾されることはない**ので注意 (to 不定詞や分詞、接続詞にも同様のことが言える)

品詞:『動詞』

動詞 = 動作・状態

動詞は『動作・状態』を表します。

動詞には『自動詞』と『他動詞』という2種類があります。

種類	自動詞	他動詞
特徴	『目的語』を取らない動詞。 直後に名詞以外の品詞が置かれる。	『目的語』を取る動詞。 次に必ず名詞が置かれる。
例	be動詞, go, liveなど	want, read, buyなど

「目的語」とは名詞の事です。かんたんに言うと、「動詞・前置詞に必要とされている名詞」を指します。例えば、他動詞は名詞を必要とするので、その名詞を「**動詞の目的語**」、少し先で説明しますが、前置詞の次に置かれる名詞は「前置詞の目的語」となります。

動詞で覚えて欲しい事は自動詞と他動詞の判別です。次に目的語(名詞)があれば他動詞、なければ自動詞と覚えておいてください。**自他両方ある動詞も多くは「他動詞」として使います。**

自動詞と他動詞のサンプル文

自動詞

- I go to London. (私はロンドンへ行く。)
- I live in London. (私はロンドン(の中)に住んでいる。)
- I think so. (私もそう思います。)

「go」, 「live」, 「think」は自動詞です。

次に「to (前置詞)」, 「in (前置詞)」, 「so (副詞)」と全て**名詞以外の品詞**が来ています。

他動詞

- I have homework. (私は宿題を持っている。 = 宿題がある。)
- I want water. (私はお水が欲しい。)
- I like UNIQLO. (私はユニクロが好きです。)

「have」, 「want」, 「like」は全て他動詞。それぞれ直後に、「homework (不可算名詞)」, 「water (不可算名詞)」, 「UNIQLO (固有名詞)」と全て**名詞**が続いています。これらの名詞を『目的語』と呼びます。「**他動詞は必ず動詞の目的語が必要**」という事を覚えておいてください。

品詞:『形容詞』

形容詞 = 名詞の状態・性質

形容詞は名詞の状態や性質を表します。

形容詞は単体で使われる場合と、名詞と一緒に使われる場合があります。
名詞と一緒に使われる事を「名詞を修飾する」とか「名詞にかかる」と言います。

名詞を修飾した場合、『形容詞 + 名詞 = 名詞』とまとめて1つの名詞として扱います。

例: beautiful, strong, big, smallなど

形容詞のサンプル ※ **ピンク**が形容詞、**青**は修飾されている名詞

単体での使い方

- She is **beautiful**. (彼女は**美しい**。)
- He is **strong**. (彼は**強い**。)

名詞と一緒にでの使い方

- Okinawa is a **beautiful place**. (沖縄は**美しいところ**です。) ※ 名詞「place」を修飾
- She is a **pretty girl**. (彼女は**かわいい女の子**です。) ※ 名詞「girl」を修飾

形容詞の位置について ※ 下の各単元に入ってからで良い

形容詞が名詞を修飾する場合は、上の「Okinawa is a beautiful place.」、「She is a pretty girl.」のように修飾する名詞の直前に形容詞を置くのが基本です。

ただし、次の4つの文法の場合は修飾する名詞の直後に形容詞を置きます。

- 1) 前置詞句の形容詞的用法
例文: The **book on my desk** is interesting. ※ 名詞「book」を修飾
- 2) to 不定詞の形容詞的用法
例文: I want **something to drink**. ※ 名詞「something」を修飾
- 3) 分詞の形容詞的用法 (分詞部分が2語以上の時)
例文: Japanese is the **language spoken in Japan**. ※ 名詞「language」を修飾
- 4) 接続詞・関係詞の形容詞節
例文: The **man who took my pen** is Yosuke. ※ 名詞「man」を修飾

4つともこのテキストで今後解説しますので、今はあまり気にしないで構いません。

品詞:『副詞』

副詞 = 名詞以外の程度・状態

副詞は名詞以外の程度や状態を表します。

具体的には、動詞・形容詞・副詞・文全体の程度や状態を表します。

副詞は単体で使うことはなく、必ず何か他の品詞を修飾します。これを「動詞・形容詞・副詞・文全体を修飾する」や「動詞・形容詞・副詞・文全体にかかる」と表現します。

そして、例えば『副詞 + 形容詞 = 形容詞』のように、まとめて修飾した品詞として扱います。

例: very, quickly, stronglyなど

副詞のサンプル ※ピンクが副詞、青は修飾されている品詞

- I move quickly. (私は素早く動く。)
※ 動詞「move」を修飾
- That is a very good question. (それはとても良い質問です。)
※ 形容詞「good」を修飾
- I listened very carefully. (私はとても注意して聞いた。)
※ 副詞「carefully」を修飾
- In the world, there are many banks. (この世界(のなか)には、多くの銀行が存在する。)
※ 「there are many banks.」という文章全体を修飾

副詞の変化について ※ 五文型に入ってからで良い

副詞は修飾した品詞になります。その変化をまとめました。

- 副詞 + 動詞 = 動詞
- 副詞 + 形容詞 = 形容詞
- 副詞 + 副詞 = 副詞 (その後また動詞・形容詞・副詞・文全体を修飾)
- 副詞 + 文 (文全体) = 文 (「副詞, SV～」の形を取る)

五文型で改めて確認するので、今はあまり気にしないで構いません。

副詞の位置について ※ 特に重要ではないので流し読みで良い

形容詞と基本的には同じで修飾する品詞の直前に置きますが、副詞と言っても単語によって文頭、文末、動詞のあとなど置く場所は結構バラバラです。特に重要ではないので今は覚えなくて良いです。速読英単語に入ってからなんとなく覚えていけば十分です。

品詞:『冠詞』

「a」「an」 = 名詞の数

冠詞には「a」「an」「the」の3つがあります。すべて『冠詞 + 名詞』の1セットで使い、まとめて1つの名詞になります。冠詞は大きく分けて「a」「an」の2つと「the」に分けることができます。まず「a」「an」ですが、これは可算名詞の単数形にのみ使える冠詞で、その名詞が1つだということを表します。

「a」と「an」の使い分けは、「a」の次に来る単語が「a (あ)」、「i (い)」、「u (う)」、「e (え)」、「o (お)」から始まっていれば「an」を使います。ちなみにこれを「母音 (ぼいん)」といいます。

冠詞「a」「an」のサンプル

- I have a pen. (私は1本のペンを持っている。)
- I have an apple. (私は1つのりんごをもっている。)

「the」 = 前に話した名詞

「a」や「an」と比べて「the」が何を表している冠詞なのかはあまり知られていません。例えば次の文を見てください。

I left a book on my desk. (本を机の上に忘れた)
I went home to get the book. (その本を取りに家に帰った。)

「a book」とは「1冊の本」です。他に情報はありません。なので、最初の文はおおげさに言うと、この世にある本のうちの1冊を机の上に忘れたことを表します。

対して、次の文の「the book」は自分が机の上に忘れた本について話しています。これを「a book」にしてしまうとまた「この世にある1冊の本」を示します。もちろん自分が机の上に忘れた本かもしれませんが、別の本かもしれません。とにかくこの世にある本のうちの1冊であれば「a book」なので。しかし、これでは話が噛み合いません。

このように『話の流れで何のことが特定できる名詞』に使う冠詞が「the」です。可算名詞の単数形・複数形・不可算名詞に使えます。

品詞:『前置詞』

前置詞を説明するには難しいです。名詞がどこにあるのかを表したり、動作(動詞)が何に影響を与えるのかその対象を表したり、働きが多すぎてコレ！といった説明はありません。

ですが文法的な使い方には1つ決まりがあります。それは必ず『前置詞 + 名詞』で使うということです。そしてその『前置詞 + 名詞』の1セットを『前置詞句』と呼びます。

そして、前置詞句は必ず形容詞または副詞になります。これだけ覚えておけば十分です。あとは長文を読んでいくうちに自然と前置詞がどういうものか理解できます。

ここではとりあえずよく使われる前置詞のニュアンスと和訳を表にしておきます。ただし、前置詞は決まった訳がありませんので、あくまでも「こういう訳になることが多い」程度に覚えておいてください。前置詞句の訳し方は名詞と前置詞を入れ替えます。詳しくはP20で説明します。

前置詞	ニュアンス	主な和訳	例文
on	モノの上	～の上(に/で/の)	I put a pen on my desk. 「私はペンを机の上においた。」
in	モノの中	～の中(に/で/の) ～において	I live in London. 「私はロンドン(の中)に住んでいる。」
from	出発点	～から	I came from Japan 「私は日本から来ました。」
at	ある地点・ポイント	～で・に	He looks at the window. 「彼は窓を見ている。」
to	行き先	～へ・に・対して	I go to London. 「私はロンドンに行く。」
for	行き先 期間	～へ・に・対して ～の間	I cook a meal for you. 「私は食事をあなた(のため)に作る。」 I wait for two minutes. 「私は2分(の)間待ちます。」
with	～といっしょの状態	～とともに ～を使って	I go with you. 「私はあなたと(ともに)行きます。」 I wash my hand with soap. 「私は手をせっけん(を使って)で洗う」
by	動作主 ～のそば	～によって ～のそば(に/で)	I am shocked by the news. 「私はその知らせに(よって)ショックを受けた」

五文型

五文型 = 英文の設計図

英語の構造を理解する上で『品詞』と並んで重要な五文型について説明します。五文型とは英文を作る上でのルールであり、**基本的に英文は『五文型』のいずれかの形に分類できます。**英語が苦手な人は一体どういうルールで単語が並んでいるのかが分かっていないですが、『五文型』を学ぶと英文がわかるようになります。

文型	文の構造	和訳テンプレート
第一文型	S + V	S は V する
第二文型	S + V + C	S は C
第三文型	S + V + O	S は O を V する / S は O に V する
第四文型	S + V + O ₁ + O ₂	S は O ₁ に O ₂ を V する
第五文型	S + V + O + C	S は O を C と V するなど

何の品詞が「S」や「O」になるのかはルールがあります。上の文型と合わせて覚えましょう。

ルール 1	文型は S (主語)・V (動詞)・O (目的語)・C (補語) の 4 つで構成される。
ルール 2	1) 名詞は S・O・C のどれかに必ずなる。 2) 動詞は自動詞・他動詞に関係なく必ず V になる。 3) 形容詞は単体で使われている場合は必ず C になる。 ※ 形容詞が名詞を修飾したときは「形容詞+名詞=名詞」となる。
ルール 3	副詞 は S・V・O・C のどれにもならない。 ※ 副詞は他の品詞と組み合わせて使うため。 - 副詞 + <u>動詞</u> = <u>動詞</u> - 副詞 + <u>形容詞</u> = <u>形容詞</u> - 副詞 + <u>副詞</u> = <u>副詞</u> (その後また動詞・形容詞・副詞・文全体を修飾) - 副詞 + <u>文</u> (文全体) = <u>文</u> (「副詞, SV～」の形を取る)
ルール 4	「前置詞 + 名詞 = 前置詞句」はまとめて 1 つの 形容詞 または 副詞 になる。
ルール 5	「冠詞 + 名詞」もまとめて 1 つの 名詞 になる。

品詞分解とは？

第一文型に入る前に、英文を読む時に行う作業である『品詞分解』についてお話しします。今後それぞれの文型に入る度に練習問題で品詞分解をしてもらうようになります。品詞分解を知らない人も多いと思います。かんたんに言うと品詞分解とは、「その英文が第何文型で、どういう意味かを明らかにする作業」の事を言います。

例に「I have a new pen.」を使って具体的な手順を説明します。

- 1) 英文を単語ごとに分ける。※「high school student」のような単語もあるので注意。
→ I / have / a / new / pen.
- 2) 全ての単語に品詞を割り当てる。
→ I / have / a / new / pen.
名詞 / 動詞 / 冠詞 / 形容詞 / 名詞
- 3) 形容詞・副詞などの他の品詞を修飾するものや、冠詞・前置詞のような他の単語と組み合わせるものは、適切な組み合わせにまとめる。
→ I / have / a / new / pen.
形容詞 + 名詞 = 名詞 (new + pen = 名詞)
冠詞 + 名詞 = 名詞 (a + new pen = 名詞)
- 4) それぞれの品詞を「S」「V」「O」「C」に変換して、第何文型なのか出す。
→ I / have / a new pen.
S / V / O
- 5) 和訳を出す。単語の意味から推測するのではなく、それぞれの文型が持つ和訳テンプレートから訳を出すこと。
→ I / have / a new pen.
S / V / O
「SはOをVする」=「私は1本のペンを持っている。」

前置詞句・to 不定詞・分詞・接続詞節・関係詞節など他の基本文法が使われていて複雑になっている文もこの方法で品詞分解し、読んでいきます。

「時間かかりすぎだろ・・・」と思うかもしれませんが、それは遅いのが悪いのです。『英文を読む = 品詞分解する』です。つまり、英文を速く読む人は品詞分解が超速いということです。

慣れてくると、左から順にカタコト訳で和訳できるようになり、より速く読めるようになります。

第一文型:『S + V』

第一文型は「S + V」の「主語 + 動詞」の形です。

和訳テンプレートは「SはVする」です。

1. I run. (私は走る)

S + V

これが最も基本的かつ、単純な構造の第一文型です。

ただし、残念ながらこの形で使われることはほとんどありません。

実際は次のように『前置詞句』がいっしょに使われることが多いです。

2. I go to London. (私はロンドンへ行く)

S + V + 副詞 (「go」を修飾する『前置詞句』)

前置詞句について

(2)の文の「to London」のような、「前置詞 + 名詞」の1セットを前置詞句と言います。前置詞句は「前置詞 + 名詞」を1つのセットにして、『形容詞』または『副詞』の働きをします。

ちなみに、今説明していますが、前置詞句は第一文型以外の文型でも使えます。

すでに解説した通り、形容詞と副詞にはそれぞれいくつかの用法があります。

それらを全てまとめると、前置詞句には

- 形容詞的用法
 - 1) 『単体で使う形容詞』
 - 2) 『名詞を修飾する形容詞』
- 副詞的用法
 - 3) 『動詞を修飾する副詞』
 - 4) 『形容詞を修飾する副詞』
 - 5) 『副詞を修飾する副詞』
 - 6) 『文全体を修飾する副詞』

という、6 パターンの可能性があるということになります。

当然、読むときには前置詞句がどの用法で使われているのかを判別しなければなりません。

前置詞句の判別の手順

それでは前置詞句の判別方法です。と言っても残念ながら「xx なら〇〇用法」と決まっているわけではありません。6 パターン全てを順番に試してみて最もしっくりくる用法を選びます。

- 1) 『文全体を修飾する副詞』の働きをしている前置詞句
→ 「副詞, SV～」の形をしている。
例: In the world, there are many stores.
- 2) 『単体で使う形容詞』の働きをしている前置詞句
→ 前置詞句が「C」になっている。
例: I am in London. (私はロンドン[の中]にいる。) ※ (私 = ロンドンの中)
S/V/ C
- 3) 『名詞を修飾する形容詞』の働きをしている前置詞句
→ 直前に名詞があり、前置詞句と名詞だけで和訳が成立。※ 直前の名詞を修飾。
例: The pen on my desk is mine. (私の机の上のペンは私のものです。)
- 4) 『動詞を修飾する副詞』の働きをしている前置詞句
→ 前置詞句の訳と V の訳だけで和訳が成立する。※ 前置詞句の後の V は×。
例: I go to London. (私はロンドンへ行く。) → 「ロンドンへ行く」
- 5) 『形容詞を修飾する副詞』の働きをしている前置詞句
→ 前置詞句と形容詞の訳だけで和訳が成立する。※ 前置詞句の後の形容詞は×。
例: She is kind to children. (彼女は子ども[たち]にやさしい。) → 「子どもにやさしい。」
- 6) 『副詞を修飾する副詞』の働きをしている前置詞句
→ 前置詞句と副詞の訳だけで和訳が成立する。※ 前置詞句の後の副詞は×。
例: ほぼ出ないので例なし。上4つが全てダメならこれ。

前のページ(2)の文「I go to London.」は「副詞, SV～」でないので(1)が×、直前に名詞がないので(3)が×、(5)(6)は修飾する形容詞も副詞も文中にないので×となり、(2)(4)が残ります。

(2)はつまり第二文型ということです。第二文型は「S = C」という決まりがあるので、「go」が「=」を表すVである必要があります。「go」は基本「=」を表さず、第二文型を作らないので×です。

残った(4)が意味的にも成立するので今回は「動詞[go]を修飾する副詞」となります。

第二文型: 『S + V + C』

第二文型は『S + V + C』の『主語 + 動詞 + 補語』の形です。
和訳テンプレートは「S = C」です。

- 1) I am beautiful. (私は美しい)
S + V + C
- 2) I am a student. (私は学生だ)
S + V + C

2ともに第二文型ですが文の構造は少し違います。
1の文章は補語「C」が形容詞、2の文章は補語「C」が名詞になっています。

五文型のルール上、「C」(補語)になれるのは『単体形容詞』と『名詞』です。

第二文型の特徴: 『S = C』

第二文型には『S = C』という特徴があります。

- 1) I am beautiful. (私 = 美しい)
S = C
- 2) I am a student. (私 = 学生)
S = C

第二文型は動詞の意味が分からなくても「S = C」という意味の文であることが分かります。
この特徴は非常に便利です。
例えば、

- You appear happy.
S ? C (単体形容詞).

という文があったとします。「appear」の意味がわからなくても「happy」が形容詞だと分かれば、「単体形容詞 = C」なのでこの文は「S + V + C」の第二文型とわかります。そして、第二文型ということは「You = happy.」という意味であることまで分かります。つまり「あなた = 幸せ」という意味の文だということがVについて考えることなく分かるということです。

「C」が名詞の場合の判別方法

「=」を表す動詞かどうかを見る

前のページの(1)の文の「S+V+形容詞」の様に C が単体形容詞だと判別は簡単です。単体形容詞は「C」にしかないからです。

問題は名詞が C の位置にある時です。

名詞は「O」または「C」になる可能性があり、**「O」なら第三文型となってしまいます。**

この時は**使われている動詞**に注目します。

第二文型を作ることのできる動詞は非常に限られています。

「S = C」を導くことのできる動詞のみが第二文型を構成します。

つまり、「=」を意味する動詞です。主に「be 動詞」、「look」、「seem」などが使われます。数が限られていますのでよく出る動詞は気がつくと思います。

「S = C」にできるかを見る

またもう一つの判別方法として、**動詞を無視して「S = C」かどうかを先に考えるのも有効です。**

- He seized my bag.

「seized」は難易度の高い単語なのでみんな知らないと思います。私も知りませんでした。ですが、少なくとも「He ≠ my bag」であることは分かります。「He」は人、「my bag」はカバンなので、「人 = カバン」は成り立たないですね。

つまり第二文型ではないと言えます。そして「S + V + ○」で○に名詞があるということは残る可能性は「O」(目的語)となりこの文章は第三文型だと分かります。

ただ、残念ながら**第三文型には第二文型の「S = C」のような特定の意味がありません。**つまり、第三文型と分かってもあまり得をしないです。とりあえず「He = my bag」と誤訳しないで済むくらいです。

Vも名詞も知らない単語の時

Vも名詞も意味がわからない時は第三文型とっておいてください。第二文型と第三文型では使われる頻度が圧倒的に第三文型の方が上です。むやみに「S = 名詞」と読まないほうが良いです。

第三文型: 『S + V + O』

第三文型は『S + V + O』の『主語 + 動詞 + 目的語』の形です。
和訳テンプレートは「SはOをVする」「SはOにVする」です。

- I have a pen.
S + V + O

上の文のような「S + V + 名詞」の形の文章は必ず**第二文型**か**第三文型**になります。

第三文型と第二文型の見分け方は第二文型の特徴「S = 名詞」かどうかを考えましょう。

「S = 名詞」なら**第二文型**

「S ≠ 名詞」なら**第三文型**になります。

- 1) I am a student.

この文章では「I = a student」と言えるので**第二文型**です。

- 2) I have a pen.

こっちの文章は「I ≠ a pen」ですよ。つまり第二文型ではなく、**第三文型**となります。

動詞を知らなくても「S = 名詞」の判別ができれば第二文型か第三文型の判別が可能です。このルールは必ず覚えておきましょう。

加えて、英語において最も多く使われる文型は第三文型ということも頭の片隅に置いておいてください。

第二文型よりも第三文型の方が使われる確率が高いので、もし長文を読んでいるときにVもその次の名詞も意味が分からなければ、むやみに「S = 名詞」にはしないほうが良いです。第三文型だという前提で読みましょう。

ただし、残念ですが、第二文型が『S = C』と意味を持っていたのに対して、**第三文型には特定の意味がありません。**

つまり、SVO の単語全て意味が分かっていなければ第三文型は和訳できません。SVO のどれかに知らない単語があればどんなに粘っても完璧な和訳不可能なのであきらめましょう。

第四文型: 『S + V + O₁ + O₂』

第四文型は『S + V + O₁ + O₂』の『主語 + 動詞 + 目的語 1 + 目的語 2』の形です。
和訳テンプレートは『S は O₁ に O₂ を V する』です。

- I give him a pen.
S + V + O + O

第四文型は『主語 + 動詞 + 名詞 + 名詞』の形になります。
しかし第五文型も同じ形を取れますので、動詞の後に名詞が並んでいても第四文型とすぐに決めることはできません。
後述する授与動詞から導くか、第五文型でないことを確認した結果第四文型であると導くことになります。

第四文型の特徴

- 1) 『O₁ ≠ O₂』の関係になっている。
O₁ は先に出てくる名詞(目的語 1)。O₂ は後に出てくる名詞(目的語 2)
- 2) 第四文型を構成する動詞は限られている。(授与動詞と言う)
→ 授与動詞は基本「～を与える」というニュアンスを持つ。まさに「与える」という訳の「give」の他にも、「send」の「物を送る(物を送って与える)」や「buy」の「買う(買い与える)」など最終的に何かが自分のもとを離れ、他の人の手に渡る意味の動詞は授与動詞であることが多い。
- 3) V の訳がわからない時は、(2)の特徴を使って、『～を与える』という訳でだいたい代用できる。

特徴はこの 3 つです。特に「S は O₁ に O₂ を V する」の訳し方はしっかり覚えておくこと。
最初の文で訳すと、

I give him a pen.
『私は + 与える + 彼に + 1本のペンを』 → 『私は彼に 1本のペンを与える。』
S は V する O₁ に O₂ を S は O₁ に O₂ を V する

訳す順番を間違えると意味が大きく変わってしまいます。間違えずに覚えましょう。

第五文型:『S + V + O + C』

第五文型は『S + V + O + C』の『主語 + 動詞 + 目的語 + 補語』の形です。
和訳テンプレートは複数存在するので下で説明します。

- You make me happy.
S + V + O + C

ついに五文型最後です。「happy」は単体で使われている形容詞なので必ず C になります。
よってこの文章は『S + V + O + C』の**第五文型**となります。

第五文型の特徴

第五文型には構造上2つの特徴があります。どちらかを満たしていれば OK です。

- 1) 『O = C』が成り立っていること。
→「O は C」と訳せる
- 2) O と C が**主語述語の関係**にあること。※ C が to 不定詞・分詞の時
→「O が C する」と訳すことができる。

第五文型は C に後に勉強する to 不定詞・分詞が使われているときと使われていないときで
和訳テンプレートが変わります。まず C に to 不定詞・分詞が使われていない時は、

- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| 1) 「S は O = C と V する」 | 2) 『S は O を C と V する』 |
| 3) 「S は O を C だと V する」 | 4) 「S は O を C の状態にする」 |
| 5) 「S は O が C の状態を V する」 | 6) 「S は O を C の状態に V する」 |

C に to 不定詞・分詞が使われている時の和訳テンプレートは、

- | | |
|---------------------------|---------------------------|
| 1) 「S は O が C するよう V する」 | 2) 「S は O に C するよう V する」 |
| 3) 「S は O が C するのを V する」 | 4) 「S は O が C する状態を V する」 |
| 5) 「S は O が C することを V する」 | 6) 「S は O に C することを V する」 |

最初の文を品詞分解すると下のようになります。

You make me happy
『あなたは + ~の状態にする + 「私 = 幸せ」』 = 『あなたは私を幸せ(の状態)にする。』
S は ~の状態にする 「O を C」 S は O を C の状態にする

最後に上のカタコトの日本語を直すと、「あなたは私を幸せにする。」という意味になります。

『主語』『動詞』『目的語』『補語』の訳し方

五文型制覇おめでとうございます。そしてお疲れ様でした。
今あなたはすべての英文の構成が完璧に理解できているはずです。
構造は説明しましたが、**和訳のしかた**を説明していませんでしたのでここで説明します。

『主語: S』の訳し方

主語はすべて『**S は**』と訳します。どんなに長い主語でも基本的には『**S は**』と訳します。
少しあとに出てくる、接続詞・関係詞節の中では『**S が**』でも良いです。
例えば次のようになります。

- 1) I have a pen.
私は1本のペンを持っている。
- 2) The population of Saitama is increasing.
埼玉県の人口は増え続けている。
- 3) I don't know when he comes.
私は**彼が**いつ来るかを知らない。

『動詞: V』の訳し方 1 - 自動詞 -

動詞は『**自動詞**』と『**他動詞**』で訳し方が少し異なります。
自動詞は、辞書で出る意味の通り訳せば良いです。つまり『**V する**』となります。

例えば、
「study」は「勉強する」という意味の自動詞です。※「～を勉強する」という他動詞もあります。

- I study.
私は**勉強する**。

このように辞書に載っている単語の意味をそのまま訳せば良いです。
ただし、実際は次のように、前置詞句などの副詞がいっしょに使われていることが多いです。
「live」は「住んでいる」という意味の自動詞です。

- I live in London.
私はロンドン(の中)に**住んでいます**。

他動詞でも同じですが、副詞が動詞を修飾する時は「副詞 → 動詞」の順に訳します。

『動詞: V』の訳し方 2 -他動詞-

他動詞は自動詞とは異なり、辞書の意味の前に『～を、～に』をつけて訳します。
この「～を、～に」は目的語を指します。つまり、『O を V する / O に V する』となります。
第三文型の和訳テンプレートはここから由来しています。

例えば、

「accept」は「～を受け入れる」という意味の他動詞です。

- I **accept** a **gift**.
私は**贈り物**を受け入れる

「meet」は「～に会う」という意味の他動詞です。

- I **meet** your **friend**.
私は**あなたの友達**に会う。

「贈り物」「あなたの友達」ともに他動詞の直後に来ている「**目的語**」です。

他動詞を覚える時は単語の意味の前に「～を、～に」を付け足しましょう。

『目的語』の訳し方 (『前置詞句』の訳し方)

目的語は何かとセットになっています。
単体で訳すことはなく、他動詞や前置詞などと一緒に訳しましょう。

他動詞とセットで使われている場合は上に書きましたので、
今回は前置詞と一緒に使われている「前置詞の目的語」の訳し方を教えます。

前置詞句は「前置詞 + 名詞」の順番ですが、訳し方は『**名詞 + 前置詞**』です。
つまり、**前置詞と名詞を入れ替えて訳せばよい**です。例えば次のようになります。

「on」は「～の上」を表す前置詞です。

- I put a pen **on my table**.
私は1本のペンを**私の机の上**に置いた。

「from」は「～から」を表す前置詞です。

- He comes **from Tokyo**.
彼は**東京から**来る。

『補語: C』の訳し方

補語が使われるのは第二文型と第五文型の文章のみです。
補語単体での訳し方というものは存在せず、この『第二文型』と『第五文型』の和訳テンプレートで訳します。

第二文型の場合

第二文型の和訳テンプレートは『S = C』です。なので『S = C』となるように訳しましょう。だいたい「S は C である」「S は C です」「S は C。(断定)」と訳せば良いです。なお、be 動詞の和訳は別に「～です、ます」ではないので無理にですます調にする必要はありません。

例えば、

- I am pretty. (I = pretty) 私はかわいい。(私 = かわいい)
- I am a good player. (I = a good player) 私は良い選手だ。(私は = 良い選手)

第五文型の場合

第五文型の和訳テンプレートは C に to 不定詞・分詞が使われていない時は、

- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| 1) 「S は O = C と V する」 | 2) 『S は O を C と V する』 |
| 3) 「S は O を C だと V する」 | 4) 「S は O を C の状態にする」 |
| 5) 「S は O が C の状態を V する」 | 6) 「S は O を C の状態に V する」 |

C に to 不定詞・分詞が使われている時は、

- | | |
|---------------------------|---------------------------|
| 1) 「S は O が C するよう V する」 | 2) 「S は O に C するよう V する」 |
| 3) 「S は O が C するのを V する」 | 4) 「S は O が C する状態を V する」 |
| 5) 「S は O が C することを V する」 | 6) 「S は O に C することを V する」 |

です。例えば、

- 1) I make Tom angry. (Tom を angry の状態にする)
→ 私はトムを怒らせる。
- 2) I think Keiko beautiful. (Keiko を beautiful だと think する)
→ 私はケイコのことを美しいと思う。
- 3) I help Koji to study. (I は Koji が to study するのを help する) ※to 不定詞使用
→ 私はコウジが勉強するのを助ける。

以上で『主語』『動詞』『目的語』『補語』の訳し方は終わりです。

これで基本的な形の英文は訳せるようになりました。

次からはこうした基本的な英文に to 不定詞・分詞・節などの文法を付け足していきます。

to 不定詞

to 不定詞とは「to」のあとに動詞の原形(三単現の S や時制などで形が変化していない状態)を置くことで構成します。この「to + 動詞の原形」が**名詞・形容詞・副詞**のどれかになります。あとは P9 の「五文型」で覚えたルールに従うだけです。

問題なのは、「名詞になっている to 不定詞」も「形容詞になっている to 不定詞」も「副詞になっている to 不定詞」もすべて『to + 動詞の原形』ということです。つまり、to 不定詞で重要なのは「to + 動詞の原形」が何詞になっているのか判別できるようにすることです。

to 不定詞の中の構造について

名詞的用法に入る前に、to 不定詞の内部構造についてお話しします。

例として、名詞的用法 1 つ目の「To learn English is important.」を見ていきます。

To / learn / English / is / important.
to / to 不定詞の V / to 不定詞の V の目的語 / この文の V / 単体形容詞
この部分が to 不定詞
S / V / C

という構造になっています。to 不定詞の条件である「to + 動詞の原形」の「**動詞の原形**」が他動詞なら目的語を必ず取ります。そして目的語を含めて to 不定詞です。

同じように**動詞の原形**が自動詞なら前置詞(句)・副詞・形容詞を続けて置くことができます。例えば次のようになります。

To / live / in London / is / fonderful.
to / to 不定詞の V / live を修飾する副詞 / この文の V / 単体形容詞
この部分が to 不定詞
S / V / C

つまり、「to + 動詞の原形」だけが to 不定詞なのではなく、**動詞の原形**が**他動詞**なら目的語も含めて to 不定詞となり、**動詞の原形**が**自動詞**ならその自動詞を修飾している前置詞(句)・副詞や、V と C の関係になっている形容詞も to 不定詞に含まれるわけです。

to 不定詞の中にある VOC はそのままだと品詞分解の時に紛らわしいので、「'」をつけて「V' (ブイダッシュ)」、「O' (オーダッシュ)」、「C' (シーダッシュ)」と呼びます。上の文だと「learn」と「live」が V' で、「English」が O' です。副詞は普通そのままですが、副詞' にしても OK です。

to 不定詞 -名詞的用法-

判別の方法	S・C・O のいずれかになっている
和訳	「V' すること」
例文	<u>S(主語)になっている場合</u> 1) <u>To learn English</u> is important. 「<u>英語を学ぶ事</u>は重要である。」 2) It is important <u>to learn English</u>. ※ 上の文章の書き換え「It is 形容詞 to 不定詞」 ※ to 不定詞「to learn English」が「It」に置き換わっている。 <u>C(補語)になっている場合</u> 1) My job is <u>to help people</u>. 「私の仕事は<u>人々を助けること</u>です。」 2) My dream is <u>to be rich</u>. 「私の夢は<u>お金持ちになること</u>です」 ※ 「be rich」は「V' + C'」の関係 <u>O(目的語)になっている場合</u> 1) I want <u>to play soccer</u>. 「私は<u>サッカーをすること</u>を望む。」＝「私はサッカーがしたい。」 2) I promise <u>not to buy the car</u>. 「私は<u>その車を買わないこと</u>を約束する。」 ※ to 不定詞の否定形「not + to + 動詞の原形」 ※ <u>I don't promise to buy the car</u>. 「私は<u>その車を買うこと</u>を<u>約束しない</u>。」 3) I made it easier <u>to visit Japan</u>. 「私は<u>日本を訪れること</u>をより簡単にした。 ※ 「it」＝「to visit Japan」

to 不定詞 -形容詞的用法-

判別の方法	・to 不定詞の直前にある名詞を修飾している ・第五文型の C になっている
和訳	・「V' するための」/「V' するべき」 ※ 直前の名詞を修飾するときの訳し方。 ・「C するよう」/「C するのを」 ※ 第五文型の訳し方を使えば良い。
例文	<u>直前に名詞がある場合</u> 1) I want something <u>to drink</u>. 「私は飲むための何かを望む。」=「私は<u>飲み物</u>がほしい。」 ※ 直前の名詞「something」を修飾している 2) I have a book <u>to read</u>. 「私は読むべき一冊の本を持っている。」 ※ 直前の名詞「book」を修飾している <u>第五文型の C になっている場合</u> 1) I want her <u>to study English</u>. 「私は彼女が<u>英語を勉強するよう</u>望む。」 2) I help him <u>to clean his classroom</u>. 「私は彼が<u>(彼の)教室を掃除するのを</u>助ける。」 3) I tell him <u>to study</u>. 「私は彼が<u>勉強するよう</u>(彼に)言う。」 4) I tell him <u>not to play the video game</u>. 「私は彼が<u>テレビゲームで遊ばないよう</u>(彼に)言う。」 to 不定詞が第五文型の C になっているときは、SVOC の O は『V の目的語』で あると同時に『C の動作をする人(モノ)』でもある。 だから(3)の文は「him に tell する」(彼に言う)と「him が to study する」(彼が勉強する)の 2 つを組み合わせた和訳になる。

to 不定詞 -副詞的用法-

判別の方法	下の 4 つの訳に当てはまる。ただし、ほとんどは「S が V' するために」
注意事項	副詞的用法には 4 種類の和訳があるので、さらに判別が必要。
例文	【目的】: 「(S が) V' するために」 ※ 強調するために「in order to」や「so as to」となることもある。 1) I work <u>to be rich</u>. 「(私が) <u>お金持ちになるために</u>、私は働く。」 ※ 自動詞「work」を修飾 2) I go to school <u>to be wise</u>. 「(私が) <u>賢くなるために</u>、私は学校へ通う。」 ※ 自動詞「go」を修飾 3) I go to school <u>in order not to be stupid</u>. 「(私が) <u>バカにならないために</u>、私は学校へ通う。」 ※ 自動詞「go」を修飾 【感情の原因】: 「V' して」「V' したので」 ※ to 不定詞の直前で必ず感情を表している 1) I am happy <u>to meet you</u>. 「<u>あなたに会えたので</u>、私は嬉しい。」 ※ 形容詞「happy」を修飾 2) I am sad <u>not to meet you</u>. 「<u>あなたに会えなくて</u>、私は悲しい。」 ※ 形容詞「sad」を修飾 【判断の内容】: 「V' するなんて」「V' するのは」 ※ to 不定詞の直前で必ず性質・性格・能力について判断をしている 1) He is kind <u>to help me</u>. 「<u>私を助けてくれるなんて</u>、彼はやさしい。」 ※ 形容詞「kind」を修飾 2) He is stupid <u>not to study</u>. 「<u>勉強しないなんて</u>、彼はバカだ。」 ※ 形容詞「stupid」を修飾 【結果】: 「SV して、(その結果) V' した。」 1) He grew up <u>to be a teacher</u>. 「彼は成長して、<u>先生になった。</u>」 ※ 動詞「grew」を修飾

文中で to 不定詞を見た時の判別方法と手順

- 1) **名詞的用法**かどうか考える。
→ to 不定詞のかたまりが S,O,C のいずれかとして使えるはず。
- 2) **五文型の C** でないか考える。(形容詞的用法)
→ 直前に名詞があるはず。

→ その名詞が第五文型の O として使えるはず。
(前置詞句などになっていたら O にできないので×)

→ その名詞を O として、「O が C する」と訳せるはず。
- 3) **直前の名詞を修飾する形容詞**かどうか考える。(形容詞的用法)
→ 直前に修飾可能な名詞があるはず。
(代名詞表[P.3]にある代名詞は形容詞に修飾されないので×)

→ 『「V するための」名詞』か『「V すべき」名詞』と訳せるはず。
- 4) **副詞的用法**かどうか考える
→ 「～するために」と訳して文が成り立つはず。
(もちろん、当てはまらなければ【目的】以外の訳も確かめること。)

to 不定詞の注意事項

- to 不定詞の「xx 用法」が**形容詞や副詞に修飾されることはない**ので注意すること。
例えば、to 不定詞の名詞的用法に形容詞を修飾させることはできない。
ただし、分詞内部の V' O' C' 等は通常通り修飾可能。
- to 不定詞の形容詞的用法における直前の名詞を修飾するパターンは、**P3 の代名詞表に載っている名詞を修飾することはない**。(代名詞のところでも説明済み。分詞や関係詞にも同様のことが言える。)

つまり、「I want him to study.」という文において「to study」が直前の名詞「him」を修飾する可能性はゼロ。

五文型の C として使われている to 不定詞の判別方法

五文型の C として使われている to 不定詞は、必ず名詞の直後にあります。

しかしその場合、「直前の名詞を修飾する形容詞」パターンの to 不定詞の可能性があるので判別が必要になります。

判別方法は第五文型の特徴の1つである「O と C が主述関係にある」を見ることです。O と C が主述関係であれば「O が C する」と訳すことができます。

五文型の C の場合

I want her to study English.

は「彼女が(英語を)勉強する」と訳せます。

I help him to clean his classroom.

は「彼が(部屋を)掃除する」と訳せます。

五文型の C でない場合

対して同じ名詞の直後にある To 不定詞でも、

I want something to drink.

は「何かが飲む」となり意味不明です。

I want a new novel to read.

も「新しい小説が読む」とこちらも意味不明です。

現在分詞・過去分詞

まず「分詞」とは、

- 1) 動詞+ing の**現在分詞**
- 2) 動詞+ed または不規則動詞の**過去分詞**

の 2 種類の事を言います。

そしてこの 2 種類の分詞が**名詞・形容詞・副詞**としての働きを持ちます。
この構造どこかで見たね？そうです。to 不定詞と同じです。

- to 不定詞 = 「to+V の原型」が名詞・形容詞・副詞のいずれかに
- 分詞 = 「動詞+ing」・「動詞+ed」・「不規則動詞」が名詞・形容詞・副詞のいずれかに

ただし、過去分詞にのみ名詞的用法が存在しないという例外はあります。

分詞のそれぞれの用法

分詞は基本的には to 不定詞と同じで、名詞・形容詞・副詞として働きます。
ただし、過去分詞には名詞的用法がありません。

to 不定詞と同じで、現在分詞・過去分詞も重要なのは「**現在分詞・過去分詞**」が何詞になっているのか判別できるようにすることです。

	現在分詞	過去分詞
名詞的用法	○	×
形容詞的用法	○	○
副詞的用法(分詞構文)	○	○

現在分詞・過去分詞の訳し方 -能動・受動について-

現在分詞と過去分詞では意味が少し異なります。簡単にまとめると、

現在分詞は「～する」「～している」= 能動

過去分詞は「～される」「～された」= 受動

という意味になります。「interest」という単語を使ってより詳しく説明します。

「interest」= 「～に興味をもたせる」【他動詞】

- 1) This picture is interesting (me). → この絵は(私に)興味をもたせている → 面白い絵
- 2) I am interested in this picture. → 私はこの絵(の中)に興味をもたされた → 興味ある

現在分詞と過去分詞の「能動」・「受動」において重要なのは、『何(誰)が主語なのか』です。

こればかりは実際の英文を見ながら考えるのが一番早いです。

下に2つサンプルを載せておきますのでしっかり理解してください。

「bore」= 「～を退屈させる」【他動詞】

- 1) My teacher is boring (me).
私の先生は(私を)退屈させている → 私の先生 = 「退屈さ」を与えている
- 2) I am bored with my teacher.
私は私の先生によって退屈させられる → 私 = 「退屈さ」を受けている
- 3) I am boring.
私は退屈させている → 私 = 「退屈さ」を与えている?? ※ 間違い

「surprise」= 「～を驚かせる」【他動詞】

- 1) The news is surprising (me).
その知らせは(私を)驚かせている → その知らせ = 「驚き」を与えている
- 2) I am surprised at the news.
私はその知らせに驚かされる → 私 = 「驚き」を受けている
- 3) I am surprising.
私は驚かせている → 私 = 「驚き」を与えている?? ※ 間違い

知っておくと便利な豆知識として、「人の感情に関するV」は『～(人)をその感情にさせる』という意味の他動詞であることがとても多いです。これを覚えておくと、「I am surprising.」を「私は驚いている。」と現在進行系の訳に間違えずに済みます。※「驚いている」は「驚く」の進行形。

受動の「される」と、「させられる」について

過去分詞は「される」「された」という訳になりますが、これが使役の訳である「させる」「させられる」とごちゃごちゃになっている人が多いので、表にしました。

	受動	受動(過去形)
V する	V される	V された
V させる	V させられる	V させられた

「V する」の場合

能動: I eat her cake.

は「私は彼女のケーキを食べる」と訳します。

受動: My cake was eaten.

は「私のケーキは食べられた」と訳します。

「V させる」の場合

He forced me to quit my job.

は「彼は私が退職するよう強制した」=「彼は私を退職させた」と訳します。

I was forced to quit my job.

も「私は退職するよう強制された」=「私は退職させられた」と訳します。

分詞の中の構造について -現在分詞-

名詞的用法に入る前に、分詞の内部構造についてお話しします。といっても現在分詞は to 不定詞と全く一緒です。例として、名詞的用法 1 つ目の「Playing soccer is fun.」を見ていきます。

Playing / soccer / is / fun.

分詞の V / 分詞の V の目的語 / この文の V / 名詞

この部分が現在分詞

S / V / C

という構造になっています。現在分詞も to 不定詞と同じく、**現在分詞になっている V が他動詞なら目的語を必ず取ります。そして、目的語を含めて現在分詞部分です。**ちなみにこの分詞部分を分詞句と呼びます。

自動詞についても to 不定詞と同じです。**現在分詞になっている V が自動詞ならその自動詞を修飾している前置詞(句)・副詞や、V と C の関係になっている形容詞も現在分詞部分に含みます。**

例えば、

Living / in London / is / wonderful.

分詞の V / live を修飾する副詞 / この文の V / 単体形容詞

この部分が現在分詞

S / V / C

現在分詞は to 不定詞と同じで、「現在分詞になった V」だけが現在分詞なのではなく、**現在分詞になった V が他動詞ならその目的語も含めて現在分詞部分として扱い、自動詞ならその自動詞を修飾している前置詞(句)・副詞や V と C の関係になっている形容詞もまとめて現在分詞部分として扱います。**

現在分詞でも to 不定詞と同じように分詞内にある VOC を「V' (ブイダッシュ)」、「O' (オーダッシュ)」、「C' (シーダッシュ)」と呼びます。上の文だと「play」と「live」が V'、「soccer」が O' になります。

分詞の中の構造について -過去分詞-

to 不定詞と少し話が違うのは過去分詞の構造です。形容詞的用法の(2)「Japanese is the language spoken in Japan.」を使って説明します。この文は、

- 1) Japanese / is / the language / spoken / in Japan.
名詞 / この文の V / 名詞 / 分詞の V / speak を修飾する副詞
この部分が過去分詞
S / V / C / 形容詞的用法で直前の the language を修飾

という構造になっています。「spoken」は原型が「speak」なので基本的に他動詞で使います。「I speak Japanese.」の形です。ですが今回は「spoken」に目的語がありません。ここが過去分詞と現在分詞の大きな違いです。

- 2) We / speak / the language / in Japan.
S / V / O / speak を修飾する副詞
「我々は」 / 「～を話す」 / 「その言語」 / 「日本で」 = 「我々は日本でその言語を話す。」

(1)の文は「Japanese is the language.」という文とこの(2)の文を1つにしたものです。この文を、過去分詞を使って「その言語は日本で(我々によって)話される。」という文に書き換えます。

- 3) The language / is / spoken / (by us) / in Japan.
この文の V / 分詞の V / / speak を修飾する副詞
この部分が過去分詞
S / V / C (過去分詞を単体形容詞として使用)

このようになります。このような「～される」という文を受動文といいます。これが過去分詞に目的語がない理由です。過去分詞は、目的語が主語に移動した受動文で使われるので目的語が1つなくなります。

この1つというのがポイントで、第四文型や第五文型では目的語に加えてO2やCがあるので、これらが過去分詞の後ろに残ります。「I give you the money.」なら「You are given the money.」か「The money is given you.」となります。「I made Yosuke angry.」なら「Yosuke was made angry by me.」となります。なお、自動詞に関しては現在分詞と全く同じです。

(3)の文では「spoken in Japan」という過去分詞部分は『単体形容詞』として使われています。この過去分詞を『the language』を修飾する形容詞として使って、さらに「日本語は(その)言語である。」という「Japanese is the language.」という文に加えれば(1)の「Japanese is the language spoken in Japan.」となります。

分詞 - 名詞的用法(動名詞) -

判別の方法	S・C・O のいずれかになっている
和訳	「V' すること」
例文	<u>S (主語) になっている場合</u> 1) <u>Playing soccer</u> is fun. 「 <u>サッカーをすることは</u> 楽しい。」
	<u>C (補語) になっている場合</u> 1) My hobby is <u>reading books</u> . 「私の趣味は <u>本を読むこと</u> です。」 = 「私の趣味は読書です。」 ※ 現在進行系とややこしいのであまり使わない。
	<u>O (目的語) になっている場合</u> 1) I like <u>playing soccer</u> . 「私は <u>サッカーをすることが</u> 好きです。」
	2) I made it easier <u>visiting Japan</u> . 「私は <u>日本を訪れることを</u> より楽にした。」 ※ 「it」 = 「visiting」
	<u>O (前置詞の目的語) になっている場合</u> 1) You can pass the exam by <u>studying hard</u> . 「 <u>一生懸命勉強することによって</u> 、あなたは試験に合格できる。」
現在分詞の名詞的用法は別名、動名詞とも言います。 主語・補語・目的語・前置詞の目的語になります。 ほぼ to 不定詞の名詞的用法と同じです。 ただし、<u>前置詞の目的語</u>になれるのは分詞の名詞的用法のみです。	

分詞 -形容詞的用法-

判別の方法	・分詞の直前または直後にある名詞を修飾している ・第五文型の C になっている ・第二文型の C になっている
和訳	現在分詞: 「V' する」/ 「V' している」 過去分詞: 「V' される」/ 「V' された」
例文	1) I like <u>flying</u> birds. 「私は<u>飛んでいる</u>鳥が好きだ。」 ※ 名詞「birds」を修飾 2) Japanese is the language <u>spoken</u> in Japan. 「日本語は<u>日本で話されている</u>言語です。」 ※ 名詞「language」を修飾 3) I heard the girl <u>crying</u>. 「私はその女の子が<u>泣いている</u>のを聞いた。」 ※ 第五文型の C 4) I heard my name <u>called</u>. 「私は自分の名前が<u>呼ばれた</u>のを聞いた。」 ※ 第五文型の C 現在分詞・過去分詞ともに形容詞的用法があります。 注意して欲しい点が 2 つあります。 1 つ目は、分詞を置く位置です。(1)の文のように、分詞部分が 1 語の時は修飾する名詞の前に置きます。これは「beautiful flower」や「cute girl」のように単体で使われている形容詞と同じ使い方です。 対して、(2)の文のように、分詞部分が 2 語以上になっている場合は、名詞の後ろに置きます。前置詞句の形容詞的用法や to 不定詞の形容詞的用法と同じです。※ (2)の文は、前置詞句「in Japan」が副詞になって「speak」を修飾していません。<u>過去分詞の「spoken」ではなく V' の「speak」を修飾しているので注意。</u> 2 つ目は前に書いた「能動」と「受動」です。分詞は現在分詞と過去分詞がそれぞれ「能動」「受動」となり和訳が異なります。 (3)の文は C が「crying」と現在分詞です。現在分詞は「V する」/「V している」と訳すので、この文は「その女の子が泣いているのを聞いた。」となります。 (4)の文は C が「called」と過去分詞です。過去分詞の訳し方は「V される」/「V された」と訳すので、この文は「私の名前が呼ばれたのを聞いた。」となります。

分詞 – 副詞的用法(分詞構文) – ※高校生のみ 速読英単語 必修編中に

分詞の副詞的用法は分詞構文と呼ばれています。

分詞構文とは、「**分詞を使って接続詞・関係詞なしで2つの文を1つにまとめる文法**」です。
通常 2 つ以上の英文を一つにまとめるには接続詞・関係詞が必要です。分詞構文を使うと、その接続詞・関係詞の働きと意味を分詞に持たせて、2 文を 1 文にまとめることができます。

この時に本来使われていた接続詞が省略されてしまいます。

ただし、省略可能な接続詞は次の 5 つしかありません。全て覚えましょう。

判別の方法	「副詞句, SV」または「SV, 副詞句」となっている。 副詞句の先頭は現在分詞または過去分詞 ※例外あり(独立分詞構文)
例文 「時」 “When”	1) Seeing me, she smiled brightly. = When she saw me, she smiled brightly. 「彼女が私を見た時、彼女は明るくほほえんだ。」 2) Elected as a leader, he cried. = When he was elected as a leader, he cried. 「彼が指導者に選ばれた時、彼は泣き叫んだ。」
例文 「理由」 “Because”	1) Having homework, he didn't have a date with Ayako. = Because he had homework, he didn't have a date with Ayako. 「彼は宿題があったので、アヤコとデートをしなかった。」 2) Surprised at the news, he shouted. = Because he was surprised at the news, he shouted. 「彼はその知らせに驚かされた(驚いた)ので、彼は叫んだ。」
例文 「条件」 “If”	1) Studying harder, you will pass the exam. = If you study harder, you will pass the exam. 「もしあなたがもっと勉強したら、あなたは試験に合格するだろう。」 2) Amazed at your skills, he should have shouted. = If he is amazed at your skills, he should have shouted. 「もし彼があなたの技術に驚かされている(驚いている)なら、彼は叫んでいるはずだ。」

例文 「譲歩」 “Though” または “Although”	【(1)は否定文を使った分詞構文】 1) Not accepting your opinion, I understand it. = Though I don't accept your opinion, I understand it. 「私はあなたの意見を受け入れないけれども、(私は)それを理解はしている。」 2) Amazed, he didn't shout. = Though he was amazed, he didn't shout. 「彼は驚かされた(驚いた)けれども、(彼は)叫ばなかった。」
例文 「結果」 “And” または 「付帯状況」 接続詞なしで 「～しながら」と 訳す時もある	1) He shouted almost every day, getting hoarse. = He shouted almost every day, and he got hoarse. 「彼はほぼ毎日叫び、(彼は)のどがかれた。」 2) He saw the list of successful applicants, crying. = He saw the list of successful applicants, and he cried. 「彼は合格者のリストを見て、そして(彼は)泣いた。」 【付帯状況・接続詞なし】 3) Smiling brightly, he shouted at me. = He was smiling brightly, he shouted at me. 「明るく微笑みながら、彼は私に叫んだ。」 (厳密には進行形ではないですが、わかりやすいので採用。)

文中で分詞を見た時の判別方法と手順

- 1) **名詞的用法**かどうか考える。(現在分詞のみ)
→ 分詞のかたまりが S,O,C のいずれかとして使えるはず。
- 2) **五文型の C** でないか考える。(形容詞的用法)
→ 直前に名詞があるはず。

→ その名詞が第五文型の O として使えるはず。
(前置詞句などになっていたら O にできないので×)

→ その名詞を O として、「O が C する」「O が C される」と訳せるはず。
- 3) **直前・直後の名詞を修飾する形容詞**かどうか考える。(形容詞的用法)
→ 直前・直後に修飾可能な名詞があるはず。
(代名詞表[P.3]にある代名詞は形容詞に修飾されないので×)

→ 分詞のかたまりが1語なら名詞は分詞の直後に、
→ 2語以上なら名詞は分詞の直前にあるはず。
- 4) **副詞的用法**かどうか考える
→ 「分詞句, SV」「SV, 分詞句」となっているはず。

→ 前置詞などなくいきなり分詞で文が始まっていればおそらくこれ。

→ 主文(分詞から始まっていない方)の S を入れて、動詞の時制を直した時に文が成立するかを確かめる。

分詞の注意事項

- 分詞の「xx 用法」が**形容詞や副詞に修飾されることはない**ので注意すること。
to 不定詞のときと同様に、名詞的用法に形容詞を修飾させることなどはできない。
ただし、分詞内部の V' O' C' 等は通常通り修飾可能。
- 分詞の形容詞的用法における直前・直後の名詞を修飾するパターンは、**P3 の代名詞表に載っている名詞を修飾することはない**。(代名詞のところでも説明済み。to 不定詞や関係詞にも同様のことが言える。)つまり、「I heard him singing.」という文において「singing」が直前の名詞「him」を修飾する可能性はゼロ。

五文型の C として使われている分詞の判別方法

五文型の C として使われている分詞は、必ず名詞の直後にあります。
しかしその場合、To 不定詞と同じように「直前の名詞を修飾する形容詞」パターンの分詞の可能性があるので判別が必要になります。

判別方法は To 不定詞の時と同じで、
第五文型の特徴の1つである「O と C が主述関係にある」を見ることです。
O と C が主述関係であれば「O が C する」と訳すことができます。

To 不定詞と異なるのは、
現在分詞は「C する/している」、過去分詞は「C される/された」と訳すことです。

ただ、実際には V が第五文型を作れるかどうかを見ることも多いです。

五文型の C の場合

I heard him singing a song.
は「彼が(歌を)歌っている」と訳せます。

I heard him called by his mother.
は「彼が(彼の母に)呼ばれた」と訳せます。

五文型の C でない場合

English is the language spoken in USA.
は「その言語が(アメリカで)話されている」と訳せますが、
be 動詞は第五文型を作れません。

どちらでも良い場合

I find the money stolen by him.
は「私はお金が(彼に)盗まれたのを見つける」と訳せますが、
「私は(彼に)盗まれたお金を見つける」とも訳せます。
どちらでも構いません。意味が異なるので前後の文脈で判断します。

文中で分詞構文を見た時の対処の仕方 - 現在分詞 -

現在分詞の場合

例: Seeing me, she smiled brightly.

- 1) 主文(分詞から始まっていない方)の主語を分詞の前に入れる。
→ She seeing me, she, smiled brightly.
- 2) 分詞を動詞に戻す。とりあえず主文と時制(過去形や現在完了形など)を同じにする。
※ 時制は同じではない時があるので、あとでもう一度直しても良い。例: P35 の if
もしこの時に SV が意味的に成り立たないなら分詞構文ではない可能性が高い。
→ She saw me, she smiled brightly.

- 3) 2つの文の意味がつながるように省略されている接続詞を補う。
補える接続詞は「when」「because」「if」「though」「and」の5つのみ。

※ 分詞から始まっていた文の先頭に接続詞を置くこと。

※ ただし、「and」は他の4つが使えない時にのみ選ぶこと。

→ When she saw me, she smiled brightly.

「彼女が私を見た時、彼女は明るくほほえんだ。」

→ Because she saw me, she smiled brightly.

「彼女は私を見たので、(彼女は)明るくほほえんだ。」

→ If she saw me, she smiled brightly.

「もし彼女が私を見たならば、(彼女は)明るくほほえんだ。」

→ Though she saw me, she smiled brightly.

「彼女は私を見たけれども、(彼女は)明るくほほえんだ。」

→ And she saw me, she smiled brightly.

※「and」は文頭には置けない接続詞なのでこの文は不成立。

→ She was seeing me, she smiled brightly.

「彼女は私を見ながら、彼女は明るくほほえんだ。」

※ 「～しながら」と訳す場合は be 動詞を入れて進行形にするとそれっぽい訳になる。
(厳密には正しくないので注意。) なお、接続詞は不要。

- 4) 3の中から意味が通るものを選ぶ。複数ある場合は前後の話の流れから判断する。
※ たまに主文と分詞側で時制や主語が異なる分詞構文もある。詳しくはのちほど。

文中で分詞構文を見た時の対処の仕方 - 過去分詞 -

過去分詞の場合

例: Surprised at the news, he shouted.

- 1) 主文(分詞から始まっていない方)の主語を分詞の前に入れる。
→ He surprised at the news, he shouted.
- 2) 分詞と S の間に「be 動詞」を加える。とりあえず主文と時制を同じにする。
※ 時制は同じではない時があるので、あとでもう一度直しても良い。例: P35 の if
もしこの時に SV が意味的に成り立たないなら分詞構文ではない可能性が高い。
→ He was surprised at the news, he shouted.
- 3) 2 つの文の意味がつながるように省略されている接続詞を補う。
補える接続詞は「when」「because」「if」「though」「and」の 5 つのみ。
※ 分詞から始まっていた文の先頭に接続詞を置くこと。
※ ただし、「and」は他の 4 つが使えない時にのみ選ぶこと。
→ When he was surprised at the news, he shouted.
「彼がその知らせに驚かされた(驚いた)時、彼は叫んだ。」

→ Because he was surprised at the news, he shouted.
「彼はその知らせに驚かされた(驚いた)ので、(彼は)叫んだ。」

→ If he was surprised at the news, he shouted.
「もし彼がその知らせに驚かされた(驚いた)なら、(彼は)叫んだ。」

→ Though he was surprised at the news, he shouted.
「彼はその知らせに驚かされた(驚いた)けれども、(彼は)叫んだ。」

→ And he was surprised at the news, he shouted.
※「and」は文頭には置けない接続詞なのでこの文は不成立。

→ He was being surprised at the news, he shouted.
「彼はその知らせに驚かされ(驚き)ながら、(彼は)叫んだ。」
※「～しながら」と訳す場合は be 動詞を入れて進行形にするとそれっぽい訳になる。
(厳密には正しくないので注意。) なお、接続詞は不要。
- 4) 3 の中から意味が通るものを選ぶ。複数ある場合は前後の話の流れから判断する。
※ たまに主文と分詞側で時制や主語が異なる分詞構文もある。詳しくはのちほど。

主語が異なる分詞構文（独立分詞構文）※ 速読英単語 上級編終了後

多くの分詞構文は主文と分詞側の S が共通ですが、たまに主語が異なる分詞構文もあります。独立分詞構文と言います。

と言っても対処は簡単で、**分詞の前に S を置くだけ**です。

例 1: A car hit him, **he** screaming.

→ A car hit him, and he screamed. (1 台の車が彼をひいた。そして彼は叫んだ。)

※ 「A car hit him, screaming.」にすると、「A car hit him, and a car screamed.」となります。

例 2: **She** seeing me, I smiled.

→ When she saw me, I smiled. (彼女が私を見た時、私はほほえんだ。)

※ 「Seeing me, I smiled.」にすると、「When I saw me, I smiled.」となります。

時制が異なる分詞構文 ※ 速読英単語 上級編終了後

多くの分詞構文は主文と分詞側の時制が共通です。ただし、たまに時制が異なる分詞構文もあります。(例: P29 の「if」) 特に**分詞側が主文の過去の話**をしているときに要注意です。

例 1: **Having** passed the exam, I am happy now. 「試験に合格したので、私は今嬉しい。」

→ Because I **passed** the exam, I am happy now. (分詞側: **過去形** / 主文: 現在形)

例 2: **Having** studied hard, I am confident. 「一生懸命勉強してきたので、私は自信がある。」

→ Because I **have studied** hard, I am confident. (分詞側: **現在完了形** / 主文: 現在形)

例 3: **Not having** finished my work, I took a nap. 「仕事は終わってなかったが、昼寝をした。」

→ Though I **had not finished** my work, I took a nap. (分詞側: **過去完了形** / 主文: 過去形)

例 4: **Invited**, I attended the party. 「招待されていたので、私はパーティーに出席した。」

→ Because I **had been invited**, I attended the party. (分詞側: **過去完了形** / 主文: 過去形)

※ 本来は「Having been invited」ですが、通常「Having been」は省略されます。

接続詞・関係詞

接続詞・関係詞は 2つの英文を1つに合体させるために用いる文法です。
2つの英文のどちらか片方の先頭に接続詞・関係詞を置くことで、その文を「**節**」と呼ばれる1つのかたまりへと変化させます。
そしてその節が**名詞**・**形容詞**・**副詞**の働きを持ち、節にならなかった文に組み込まれます。
なお、厳密には別物ですが、基本的に接続詞と関係詞はほぼ同じものと考えて構いません。

判別の仕方

名詞節	節が SOC のどれかになっている
形容詞節	節の直前にある名詞を修飾している
副詞節	「副詞節, SV」または「SV 副詞節」となっている ※「SV, 副詞節」限定の「and」など、一部例外あり

覚えられないといけない主な接続詞・関係詞

when	
名詞節: 『いつ when 節するか』(ということ)	I don't know when he comes. 「私は彼がいつ来るかを知らない。」
形容詞節: 『when 節な(直前の名詞)』	I remember the time when I met you. 「私はあなたと出会った時のことを覚えている。」
副詞節: 『when 節な時、』『when 節の時、』	When I was a child, I disliked math. 「私が子供の時、私は数学が嫌いだった。」

where	
名詞節: 『どこで(に)where 節するのか』 (ということ) 『where 節する場所』	I don't know where he goes. 「私は彼がどこへ行くのかを知らない。」
形容詞節: 『where 節な(直前の名詞)』	I found the park where I met you. 「私はあなたと会った公園を見つけた。」
副詞節: 『where 節なところに』	I must put the book back where I found it. 「私はその本を見つけたところに戻さなければならない。」

who	
名詞節: 『誰が who 節するか』(ということ) 『誰を who 節するか』(ということ)	I know who took my pen. 「私は誰が私のペンを持ち去ったのかを知っている。」
形容詞節: 『who 節な(直前の名詞)』	The man who took my pen is Yosuke. 「私のペンを持ち去った男はヨウスケだ。」
副詞節	×

which	
名詞節: 『どの which 節か』(ということ) 『どちらの which 節か』(ということ)	I don't know which singer is her favorite. 「私はどの歌手が彼女のお気に入りかを知らない。」
形容詞節: 『which 節な(直前の名詞)』	I know the singer which he loves. 「私は彼が愛する歌手を知っている。」
副詞節	×

What	
名詞節: 『何を what 節するか』(ということ) 『何が what 節するか』(ということ) 『what 節なもの(こと)』	I don't understand what he said. 「私は彼がなにを言ったのか理解していない。」 This is what I said. 「これは私が言ったことです。」
形容詞節	×
副詞節	×
知っておくと得する考え方	「what」 = 「the thing + that の形容詞節」

why	
名詞節: 『なぜ why 節か』(ということ) 『why 節する理由』	I don't understand why you smoke. 「私はなぜあなたがタバコを吸うのかわからない。」
形容詞節: 『why 節な(直前の名詞)』	There is a reason why I help you. 「私がある理由がある。」
副詞節	×

how	
名詞節: 『どれくらい how 節か』 (ということ)	I don't know how old your father is. 「私はあなたの父が何歳かを知らない。」
『どのように how 節するか』 (ということ) 『how 節の方法・仕方』	I don't know how he got the money. 「私は彼がどのようにそのお金を手に入れたかを知らない。」
形容詞節	×
副詞節	×

that	
名詞節: 『that 節』(ということ)	I think that he studied very hard. 「私は彼が一生懸命勉強したと思う。」
名詞節(同格): 直前の名詞の言い換え	The fact that she likes you is unbelievable. 「彼女があなたを好きという事実は信じがたい。」
形容詞節 『that 節な(直前の名詞)』	He wrote the book that changed my life. 「彼は私の人生を変えた本を書いた。」
副詞節	一部の熟語のみ (so 形/副 that 節など)

if	
名詞節: 『if 節かどうか』(ということ) ※ O のみで、S には使用不可	I don't know if she likes me. 「私は彼女が私を好きかどうかを知らない。」
形容詞節	×
副詞節: 『もし if 節なら』	If you like me, I am happy. 「もしあなたが私を好きならば、私は幸せです。」

whether	
名詞節: 『whether 節かどうか』(ということ)	I don't know whether he will come. 「私は彼がくるかどうかを知らない。」
形容詞節	×
副詞節: 『whether 節であろうとなかろうと』	Whether he comes or not, I will not care. 「彼が来ようと来なかろうと、私は気にしない。」

so that	
名詞節:	×
形容詞節	×
副詞節:	I gave him my address, so that he could contact me. 「彼が私に連絡できるように、私は住所を教えた。」
1. 目的:『so that 節するために』	
2. 結果:『その結果、so that 節』	He came close so that I could recognize him. 「彼が私に近づいた結果、私は彼に気がついた。」

as	
名詞節	×
形容詞節	一部の熟語のみ
副詞節	As you got older, you became wiser. 「あなたが年をとるにつれて、あなたはより賢くなった。」
1. 時: 『as 節の時』『as 節につれて』	
2. 理由: 『as 節なので』	As I studied very hard, I passed the exam. 「私は一生懸命勉強したので、私は試験に合格した。」
3. 様態: 『as 節として』『as 節のように』	The boy did as he was told. 「その少年は彼が言われたようにした。」
4. 譲歩: 『as 節だけれども』 (形/副が文頭になる)	Poor as he was, he was honest. 「彼は貧しかったけれども、彼は正直だった。」

その他の接続詞 while, after, since, because, and, but など	
名詞節	×
形容詞節	×
副詞節	それぞれの接続詞の意味

接続詞・関係詞の注意事項

- 接続詞・関係詞の「xx 節」が**形容詞**や**副詞**に修飾されることはないので注意。

ステップ1: 文中の『節』を見つけることに慣れる

接続詞をまるで囲い、節は始まりと終わりを[]で挟んでください。

節を見つける上でのポイントは次の2つです。

1. 節の先頭は接続詞・関係詞である。
2. 節の中には英文(=第一文型～第五文型)が1つ入っている。

1. I don't know when he comes.
2. I remember the time when I met you.
3. When I was a child, I disliked math.
4. I don't know where he goes.
5. I found the park where I met you.
6. I must put the book back where I found it.
7. I don't know how old your father is.
8. I don't know how he got the money.
9. I know who took my pen.
10. The man who took my pen is Yosuke.
11. I don't know which singer is her favorite.
12. I know the singer which he loves.

13. I don't understand what he said.
14. This is what I said.
15. I think that he studied very hard.
16. The fact that she likes you is unbelievable.
17. He wrote the book that changed my life.
18. I don't know if she likes me.
19. If you like me, I will be happy.
20. I don't know whether he will come.
21. As you get older, you became wiser.
22. As I studied very hard, I passed the exam.
23. The boy did as he was told.
24. You like her, but she dislikes you.
25. What I said is what you need to know.

ステップ2: 関係代名詞について

関係詞のうち、「**who**」「**which**」「**that**」は**関係代名詞**という特別な働きも持つことがあります。関係詞の『節を作る』働きと、代名詞の『他の名詞の代わりになる』働きを両方持っています。

「who」「which」「that」が関係代名詞として働く時、その関係詞節は必ず形容詞節になります。

形容詞節には必ず直前に説明されていない名詞があります。
関係代名詞「who」「which」「that」はその名詞を指す代名詞としても働きます。

つまり、節を作りつつ、節の中ではその名詞として SOC の働きも持ちます。
もちろん前置詞の目的語にもなれます。

関係詞の選び方は直前の名詞が人物なら「who」、モノなら「which」または「that」を使います。

例1: The man who took my pen is Yosuke. の場合

The man is Yosuke. + The man took my pen.

S / V / O

+ [who the man took my pen] who を文頭に置いて節を作る

/ s' / v' / o'

The man [who the man took my pen] is Yosuke.

who 節を形容詞節として入れる

/ s' / v' / o'

The man [who ~~the man~~ took my pen] is Yosuke.

形容詞節と the man を訳すと、
「その男は私のペンを持っていっ
たその男」となり不自然。
繰り返しになっている who 節内
の the man を省略する

/ s' / v' / o'

The man [who took my pen] is Yosuke.

省略された the man の品詞分解
S' を who が引き継ぐ

S' / V' / O'

例2: I know the singer which he loves. の場合		
I know the singer.	+ He loves the singer.	
	S / V / O	
	+ [which he loves the singer]	which を文頭に置いて節を作る
	/S' / V' / O'	
I know the singer [which he loves the singer].		which 節を形容詞節として入れる
	/S' / V' / O'	
I know the singer [which he loves the singer].		形容詞節と the singer を訳すと、 「彼はその歌手を愛しているその歌手」となり不自然。 繰り返しになっている which 節内の the singer を省略する
	/S' / V' / O'	
I know the singer [which he loves].		省略された the singer の品詞分解
	O' / S' / V'	O' を which が引き継ぐ

例 3: This is the book that he told about. の場合		
This is the book.	+ He told about the book.	the book は前置詞の目的語
	S / V / 前置詞+目的語	前置詞+目的語(名詞)=前置詞句
	+ [that he told about the book]	that を文頭に置いて節を作る
	/S' / V' / 前置詞+目的語	
This is the book [that he told about the book].		that 節を形容詞節として入れる
	/S' / V' / 前置詞+目的語	
This is the book [that he told about the book].		形容詞節と the book を訳すと、 「私はその本について話したその本」となり不自然。 繰り返しになっている that 節内の the book を省略する
	/S' / V' / 前置詞+目的語	
This is the book [that he told about].		省略された the book の品詞分解
	目的語/S' / V' / 前置詞	前置詞の目的語を that が引き継ぐ

ステップ3: 接続詞・関係詞(関係代名詞)の省略

最初に書いた通り英文には1つか動詞がありません。1つの英文に2つ以上動詞があるように見えるときは必ず接続詞か関係詞が使われています。

ただしこの接続詞・関係詞は特定のパターンの時に省略することが可能です。

重要: 省略できるパターンは以下の2つの場合のみです。

1. 「think」「know」「say」などの、「言う」「思う」タイプの動詞の後ろの「that (節)」

→ 節は必ず名詞節となり、動詞の目的語 O になります。

2. 関係詞がその節の中で目的語(O)になっている時

→ 必ず形容詞節となります。

第四文型でも第五文型でもなく、不自然に名詞が連続していればコレです。

節の中で目的語になっている関係代名詞が省略されています。

なお、関係詞が節の中で主語になっている時は省略できません。

※「The man who took me pen is Yosuke.」のようなケースは省略不可

例1:

I think he is foolish.

= I think that he is foolish.

(「言う」「思う」の後ろの「that」)

例2:

All you need is to click here.

= All - you need all - is to click here.

→ All that you need is to click here.

(that = all で that 節では need の目的語 O)

例3:

The woman I wanted to see is Atsuko Maeda.

= The woman - I wanted to see the woman - is Atsuko Maeda.

→ The woman who I wanted to see is Atsuko Maeda.

(who = the woman で who 節 see の目的語 O)

※ I wanted to see the woman. + The woman is Atsuko Maeda.

例4:

I found the key you lost.

= I found the key - you lost the key -

→ I found the key which you lost.

(which = the key で which 節では lost の目的語 O)

※ I found the key. + You lost the key.

節の中が『完全文』か『不完全文』か

主な接続詞の例文を見ていて気がついた人もいるかもしれませんが、時々節の中の SOC がなくなっています。

例えば、「He wrote the book that changed my life」という文を見てください。この文の that 節の中は「that changed my life.」と本来「the book changed my life.」となるはずなのに S がなくなっています。

このような『何かが省略されている文』を『**不完全文**』と言います。なぜ省略されているのかはステップ 2 と 3 でわかります。

使われている接続詞・関係詞によって節の中が完全文なのか不完全文なのかが決まっています。

ステップ 2 と 3 で解説する節の成り立ちが理解できれば暗記する必要はないですが、わかりやすくまとめておきますので覚えておくとなんかと便利です。(主にセンター試験の大門 2)

- who, which, what
→ 節内は必ず**不完全文**
- that
→ 名詞節なら必ず**完全文**、形容詞節なら必ず**不完全文**
→ **この特徴を使って『形容詞節』なのか『同格の that 節』なのか判別する**
- その他の接続詞・関係詞
→ 必ず**完全文**

お問い合わせ先・西原塾の住所

塾名	西原塾
塾長	西原陽介
所在地	〒343-0045 埼玉県越谷市下間久里 551-14
電話番号	080-5456-2520（塾長携帯）
メールアドレス	nishiharajuku@gmail.com

ホームページ	Twitter	LINE	Facebook
			

教室へのアクセス

東武伊勢崎線(スカイツリーライン)大袋駅・せんげん台駅から徒歩約 17 分です。
ローソン 越谷下間久里仲田店の真後ろにあります。
茨城急行自動車通称「茨急バス」の「下間久里停留所」から徒歩 1 分です。

スカイプ・ラインでの在宅授業も可能です

教室に直接通うのは難しい方へはスカイプやラインを使った在宅授業を行っています。録画ではなく、生で授業を行いますので、指導内容は直接通う生徒と全く同じです。
「鹿児島県・奄美大島」「兵庫県」「栃木県」など全国各地の生徒が在宅授業を受けています。

お気軽にお問い合わせください。

ご不明な点はお気軽にお問い合わせください。
また、お子さんに合わせた指導時間やカリキュラムなど柔軟に対応いたします。
お電話・メール・Facebook・Twitter・LINE など複数のお問い合わせ方法をご用意しておりますのでお気軽にお問い合わせください。